

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470800287		
法人名	特定非営利活動法人しらゆり		
事業所名	グループホームしらゆり竹田		
所在地	竹田市大字竹田町279-1		
自己評価作成日	平成26年1月14日	評価結果市町村受理日	平成26年7月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は城下町竹田の中心地に位置し、歴史を肌で感じられる環境の中にあります。年間を通じて竹田ならではの行事や催事が数多く行われており、それが入所の皆さんの楽しみにもなっています。家庭的な雰囲気の中、入居者様の心に寄り添い信頼しあえる関係づくりを心掛け、生き甲斐と喜びを持って暮らしていただけるよう職員一同介護に取り組んでいます。また、身体の残存機能を活かした体操やレクリエーションを取り入れ、身体機能の低下を防ぐと同時に食事面でも「美味しく健康に」をテーマに旬の食材を活用した手作り料理を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

その日に食べたいものを目の前で調理、旬の食材やいただき物の野菜や魚等食べやすく工夫して、職員と楽しく、美味しく、家族のように食事をしている。また、近所と馴染みの関係ができており、気軽に行き来している。運営推進会議には消防団も参加して、災害時も連携がとれる体制ができています。医療機関とも馴染みの関係であり、体調に応じて訪問診療など受けられ、医師は支援方法など職員に指導もしてくれ安心である。利用者が今持っている能力を維持できるよう職員は様々な工夫をして、レクリエーションなどで支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念に基づいた意識の統一をはかり、実践に活かすようにしている。	職員間で話し合い「あきらめ」を希望に変える介護を目指している。具体的な内容も掲げ毎日職員が声にだし共有し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が昔から利用している理・美容店を、入居後も継続して利用するなど地域とのつながりが途切れないように支援している。	2階に事業主宅があり地域とは密な関係性があり、近隣には商店や居酒屋が多く、ご近所から食材の配達、地域の行事等に参加している。自治会費も支払い、牡丹餅など作ったらおすそ分けをしあう馴染みの関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設から9年が経過し、地域の方にもグループホームの存在を違和感なく受け入れてもらえるようになり、様々な面で理解や支援をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き利用者の状況報告やグループホームの抱える問題点などを提起し、推進委員からの意見を参考にサービスに生かしている。	定期的で開催しており、市や地域の方、消防団など多くの方が参加している。事業所内に会議室がないため近くの食堂で行い、様々な問題点や課題などを話し合い、会議後の食事会では、和やかな中で意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所介護保険係の担当者と常に連携をとり、サービス・運営に関する情報交換を行っている。	介護保険の利用について個別に相談し、アドバイスを受けている。ケアプランについての研修会が市主催で開かれ、センター方式の研修や地域の事業所と市役所を交えての意見交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議時などに身体拘束防止に向けた勉強会を行い、職員全員が正しく理解した上で介護に取り組んでいる。	毎月の会議で、担当スタッフを中心に研修を行っている。家族から転倒予防の安全のための要望もあるが、一人ひとりの状態を把握し職員と話し合いながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議時などに虐待防止についての勉強会を行い、いかなる場合も虐待に繋がる行為がないように職員全員が注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を学ぶ機会には設けていないが、成年後見制度を利用している利用者があるため、必要に応じて相談、活用をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が不安を抱くことがないよう、十分な説明と疑問に対しての返答を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が面会に来た際、意見や要望を聞く機会を設けており、また玄関には意見箱を設置し自由に意見を投書できるようにしている。	月に一度、利用料の支払いに来所してもらい、家族と会話をしている。家族は運営推進会議に出席し、意見や要望など出している。地域性もあり職員と馴染みの関係性が構築されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議等で職員からの意見や提案を収集し、運営に反映させている。	職員間の信頼関係もあり、お互いに意見や思いが言いやすくなっている。会議をする場所がないことから外で食事をしながら仲良く話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が常にやり甲斐と向上心を持って働けるよう、勤務実績、能力に応じ平等に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時開催される研修(会)に積極的に参加するよう促しており、研修受講者はその内容を全職員にフィードバックするようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在他施設との交流機会はほとんどないが、来年度より市内の小規模施設連携の研修会や交流会を継続して行っていけるよう準備活動をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は利用者と同じ目線に立ち一人の人格者として尊敬し、ゆっくり聞き取りやすい言葉がけで接すると同時に、利用者が穏やかに過ごせるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が安心して介護を任せられるよう、あらゆる相談、疑問に耳を傾け要望に応えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の身体状況等に応じ、ケアマネや家族と相談した上で通院、リハビリその他必要と思われるサービスの検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる範囲のことを手伝ってもらったり同じ目線で物を見たり、会話をしたり、共に生活をしている実感を味わってもらえるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の施設での生活状況等を家族に知らせ、職員と家族が共通した介護認識を持つるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に限らず、昔交流のあった方なども気軽に面会に来てもらえるよう配慮している。ただ、昔親しかった方も高齢化等により徐々に接する機会が減っている。	利用者の馴染みの場所や人を把握して、自宅が近い方は車椅子で帰宅、通っていた理美容院に出かける方もいる。高齢化により周りの方も来れない状況になりつつあるが、ホームと近隣の方々と馴染みの関係ができ交流できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握しトラブルを発生させないよう支援を行うと同時に、利用者が孤独感を味わうことがないように適宜声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も家族と連絡を取り合い、必要な助言、アドバイス等のアフターフォローを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で利用者の意向の把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推しはかり本人にとってどのような生活が望ましいのか検討している。	職員は各人の生活歴や思いなどを把握しているが、口で伝達されていることが多く、職員間で共有はしているが、記録として記入は少ない。市主催のセンター方式の学習会などに参加して研修は行っている。	学んだシートを参考に、一人ひとりの生活歴や思い等具体的に記録して、プランに反映することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握が不十分であり記録として残されていないが、昔の趣味・趣向を活かしたレクの導入など少しでもその人らしい生活が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、職員は常に心身状態の変化を見逃すことがないように注意を払っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日ごろのかかわりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	面会時に家族と本人を交えて話し合っ、毎月モニタリングをしている。ケアプラン作成、変更などプランとケアの結びついた内容が少ない。	職員とサービス作成担当者がじっくりと話し合い、現状に即した介護計画で、具体的支援内容でケアに反映することが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、排泄、身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。職員の気づきや利用者の状態変化を個別に記録し職員間の情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外にも、本人や家族の要望があった場合や必要と思われる支援には柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	提携医療機関との連携、消防署立会いによる消火・避難訓練などを通じて、利用者が安心して生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を実施。また体調異変等があった場合はいつでも医療機関と連絡がとれるように体制を整え医師の指示を仰いでいる。	同じ医療機関がかかりつけ医の人が多く、継続した受診である。また、月に2回の往診や夜間・休日でも対応可能な医療体制ができています。状況に応じては随時の訪問診療がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職全ての職員が利用者の状態を詳しく把握し、適切な受診を受けられるよう密に連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が交替で訪問し、最善の治療や早期退院に向けた情報交換を医療機関と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期や重篤時に関する意思確認書を交わすようにしており、本人や家族の要望を優先した上で、終末期の対応について医師を交え話し合いを持つようにしている。	入所時から話し合いができるよう書類も整え、状況に応じての話し合いも随時行っている。専門的な医療が必要になった時はホームでの支援は困難であるが、点滴等も訪問診療にて対応が可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応についての訓練は現在行っていないが、今後毎月の会議時などに勉強会や講習を行い、全職員が実践力を身に付けられるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々に協力を仰ぎ避難訓練を行ったり、マニュアルを作成し災害時の避難方法について職員全員が共通意識を持っている。	年度末に運営委員(地域代表)参加の夜間想定避難訓練が予定されている。地域消防団も運営委員として協力体制ができており、備蓄も整えられている。水害があったことから災害時の対応もマニュアル作成し、職員間で話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や能力を理解し尊重した対応を心掛け、その時々のお気持ちに応じて穏やかな声掛けをしている。	研修に参加し、目上の方、人生の先輩として、プライドが保てる声掛け等話し合っ取り組んでいる。穏やかな声のトーンで、ゆったりとした支援である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のやりたいこと、食べたい物、見たい物など、職員から押し付けることなく本人の意思を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望とペースに合わせた生活リズムを優先しているが、レクリエーションなど一部施設側の都合が優先されている部分がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に合わせて理、美容院の利用支援を行っている。外出時も職員が着替えを手伝い、新鮮な気持ちで出かけられるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ食事を一緒に言葉を交わしながら食べている。また食欲が進むように色取りや盛り付けなど工夫を凝らしている。	3食手作りで、地域の食材をご近所から仕入れ、朝の話し合いで今日食べたいものを聞いて調理している。隣りが魚屋で新鮮な刺身やお寿司など職員と一緒に楽しく味わい、旬の食材のおすす分けで一品追加も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の身体状況、体重増減等を考慮し、適宜食事メニューや食事量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいを励行しており自分でできる方は見守り、出来ない方は職員のケアにより口腔衛生を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が困難な利用者以外は、昼夜問わずオムツの使用を避け、自分の意思で排泄出来るよう支援を行っている。	歩行困難な方が多く、自力で自由にいける方が1名のみであるが、トイレに行くことも生活リハビリと捉え、トイレサインを見逃さず誘導している。夜間頻回にトイレに行く方にも根気よくトイレでの排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では野菜を豊富に使用し繊維の多い食品を使った献立を考えている。また便秘になりやすい方には、乳製品や水分調整で排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日と時間をある程度決めているが、入浴を希望する方がいれば柔軟に対応している。	週に2回以上の入浴で、お風呂を楽しみにしている方もいる。暑い季節は随時シャワー浴を行っている。介護用の浴室でないことから、車椅子利用の方の支援が困難であるが、職員2名で工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の睡眠パターンを把握し夜眠れない人には一日の生活リズムを通し安眠策をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を理解し間違いのないように注意して与薬している。医師の指示通り服用できるよう支援し、症状の変化があればその都度医師に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが楽しみ事や出番を見いだせるよう場面づくりの支援を行っている。(週刊誌、テレビ、絵描き、歌、洗濯物たたみ、お膳ふき、食材の下ごしらえ等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望する方には散歩、近隣訪問、町内行事への参加など気軽に出かけられるように支援している。	近くの自宅まで車椅子で帰宅する方や、街中散歩など楽しんでいる。暖かい時期にはラーメンなど外食し、地域の行事の竹楽や祭りに出かけている。ワゴン車に乗って桜やチューリップなどの花見等外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を持つことを希望する利用者がいないため金銭管理の支援は行っていないが、今後希望する利用者がいれば支援を行っていく予定である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの申し出に応じ、手紙や年賀状書きの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり壁面に季節感のある折り紙や装飾を施し、施設内においても季節の移ろいを感じてもらえるよう工夫している。	職員手づくりの季節感のある飾りを壁に貼って、狭い空間でも四季を感じるよう工夫している。手の届くところにキッチンがあり、調理の音や食材の香り等生活が感じられる。共用空間では職員はいつでも見守られる配置で、利用者は常に寄り添ってもらえ、安心できる造りである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格、利用者間の相性などを考慮し、テーブルやソファの配置換えを随時行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に応じてテレビやラジカセを部屋に置き好きな時に楽しめるようにしている。また昔のアルバム、写真などを部屋に置きいつでも見れるようにしている。	昔馴染みの写真や大切な本等持参しており、自由に見ては楽しんでいる。テレビや小物など生活様式に合わせ用意し、自分の居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所への手すりの設置、浴槽、便器の使い勝手など利用者の身体機能に合わせて安全かつ自立した生活を送れるようにしている。		